

じ ば さん ぴん

「地場産品ができるまで」

とくさんひんかいたいしんしょ

しずおか特産品解体新書

～地場産品ができるまで～

しずおか特産品解体新書

がっこうめい 学校名		ねん 年	ぐみ 組
なまえ 名前			

令和2年4月

編集・発行 しずおか焼津信用金庫 お客様サポート部

協力 静岡市、静岡特産工業協会、静岡県産品愛用運動推進協議会
 静岡竹工芸協同組合、静岡雛具人形協同組合、静岡木工芸組合、静岡挽物組合
 静岡漆器工業協同組合、静岡蒔絵組合、静岡木製はきもの商工業組合
 静岡塗下駄工業組合、静岡木製はきもの張加飾組合、静岡市染色業組合
 望月栄一、しづはた焼 秋果陶房、静岡県家具工業組合、静岡雑貨組合
 静岡木製クラフト、静岡仏壇卸商工業協同組合
 静岡ツキ板協同組合、静岡サンダル工業協同組合、静岡模型教材協同組合
 静岡茶商工業協同組合、静岡県漬物商工業協同組合



- 駿河竹干筋細工
- 駿河雛人形
- 静岡挽物
- 駿河漆器・駿河蒔絵
- 駿河塗下駄
- 井川メンバ
- 駿河雛具
- 駿河指物
- 駿河和染
- 賤機焼

- 木製家具
- 木製文具
- 建具
- 釜金属品
- サンダル・シューズ
- お茶
- 木製雑貨
- 仏壇
- 木工機械
- ツキ板
- プラスチックモデル
- わさび漬

はじめに

豊かな自然と温暖な気候に恵まれた静岡市は、徳川家康が晩年を過ごした駿府城を中心に発展した街です。

特に産業の面では、駿府城や浅間神社と深い係わりを持って発展したものが多くあります。

中でも、地場産業と言われている産業は多くの職人さんたちが、昔ながらの製造方法を守りながら、これに工夫と改良を重ねて、現在あるような地場産業へと育ってきました。

特に近年は、製造などに係る経費を可能な限り少なくするために機械化し、省力化しようとする考え方が大勢を占めています。

そんな中であって昔から伝えられている手法を大切に守りながら、より良い製品を作り出そうと、努力している人々がいます。

静岡市の地場産業は、このような人々の努力によって守られ、発展してきました。

今では、日本国内はもとより、外国の人々にも愛用されている製品がたくさんあります。

私共は、この地場産業を支えてきた職人さんたちを始めとする多くの人々の汗と努力の歴史や、数々の優れた特産品を知ってほしいとの願いから、この「しずおか特産品解体新書」という冊子を発刊いたしました。

この冊子を一人でも多くの皆さんに読んでいただき、私たちの住んでいる静岡市の歴史や産業などについての知識を深めていただきたいと思います。

そして、この冊子が私たちの故郷である静岡市をさらに住みよい、豊かな街にするため、皆さん一人一人が真剣に考えるきっかけになる事を、心から願っています。

最後にこの冊子の発刊にあたり、資料の提供やご指導をいただきました多くの皆様に厚くお礼を申し上げます。

令和2年4月

しずおか焼津信用金庫

理事長 **田形和幸**

もくじ

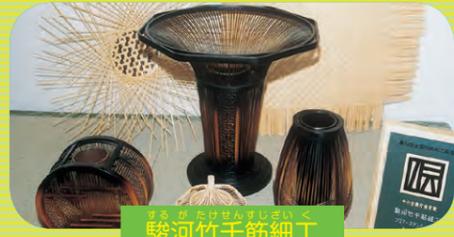
- わたしたちのまちの地場産業 6・7
- 駿河漆器職人さんの一日 / 木工職人をめざす若者の一日 . . . 8・9
- 「駿河竹千筋細工」ができるまで 10
- 「駿河雛具」ができるまで 12
- 「駿河雛人形」ができるまで 14
- 「駿河指物」ができるまで 16
- 「静岡挽物」ができるまで 18
- 「駿河漆器・駿河蒔絵」ができるまで 20
- 「駿河塗下駄」ができるまで 22
- 「駿河和染」ができるまで 24
- 「井川メンパ」ができるまで 26
- 「賤機焼」ができるまで 28

■ 国が指定する伝統的工芸品
■ 静岡県が指定する郷土工芸品

もくじ

- 「木製家具」ができるまで 30
- 「木製雑貨」ができるまで 32
- 「木製文具」ができるまで 34
- 「仏壇」ができるまで 36
- 「建具」ができるまで 38
- 「木工機械」ができるまで 40
- 「金属製品」ができるまで 42
- 「ツキ板」ができるまで 44
- 「サンダル・シューズ」ができるまで 46
- 「プラスチックモデル」ができるまで 48
- 「お茶」ができるまで 50
- 「わさび漬」ができるまで 52
- しずおか特産品見聞録 54・55

● 表紙 ● 静岡県郷土工芸品 ■ 駿河和染「紺徳」望月良氏



駿河竹千筋細工



駿河雑具



駿河雛人形



駿河指物



静岡挽物



駿河漆器・駿河蒔絵



駿河塗下駄



駿河和染



井川メンパ



賤機焼



木製家具



木製雑貨



木製文具



仏壇



建具



木工機械



金属製品



ツキ板



サンダル・シューズ



プラスチックモデル



お茶



わさび漬

わたしたちのまちの地場産業

じ ぼ さ ん ぎ ょ う



静岡浅間神社



1. 地場産業とは、

地場産業とは、昔ながらの手法に工夫と改良を重ねながら地域(註)との深い係りを持って育った産業で、生産量、生産額ともに市・町・村の中では、代表的な産業を一般的に地場産業とよんでいます。

(註) 地域とは

江戸時代には、いろいろな職種の職人さん達がお互いに協力して、物をつくるために住んでいた一定のまとまった地域(職人町ともいう)がありました。

例えば、浅間神社の神器(神様にお供え物をする時に用いる器)や領主(城を持たない一万石以上の武家)などに納める食器作りには、木地師や塗師といった職人さん等が一定の地域に住み、そのうえに自分の得意とする技術を持ち寄り、協力してつくっていました。現在では、交通手段が発達しているため、地域という枠を必ずしも必要としませんが、江戸時代には、一定の地域の中に住んでいないと、非常に不都合な事が多くありました。また、地域(職人町)の中には、つくられている物の名前や、つくられている物の文字が入っている地名があります。

食器は、御器屋町(現在の西草深町)でつくられていた関係上、町名の中に「器」という字が入っています。この外にも、大工町、大鋸町、呉服町、紺屋町、茶町、桶屋町といったように、つくられていた物に関係した町名があります。

2. 静岡の地場産業の生い立ち

静岡市(葵区・駿河区)の地場産業は、駿府城や浅間神社、久能山東照宮の建築などの大きな事業に支えられて発展してきました。中でも、徳川時代にごうかに建てかえられた静岡浅間神社が、今日の葵区・駿河区の地場産業の発展に大きな影響をあたえてきました。この浅間神社は多くの費用と、長い年月をかけて完成しました。この工事には、全国から宮大工(お宮さんなどをつくる大工)、左官、建具職、飾り職、塗師など、大勢の職人さん達が集められました。

この職人さん達の仕事は、自分の代だけでは終わらず、子供や孫の代までも続く大きな仕事であったために、一家をあげて駿府(静岡市)に移り住んできました。これらの職人さん達は浅間神社が完成した後も、駿府の気候や、自然を好み、また、神社やお寺、大名などが使う道具をつくる仕事が多かったことから駿府(静岡市)に定住するようになりました。

そして、自分の得意とする技術を磨きながら自分の持っている技術を地域の人々に教え伝えてきたのが、静岡市(葵区・駿河区)の地場産業の始まりといわれています。

このように静岡市(葵区・駿河区)の地場産業は、江戸時代から明治時代にかけて、その基礎が形づくられました。その後も新しい技術を取り入れたり、新しい商品を開発したりしながら現在あるような地場産業へと発展してきました。

3. 現在の地場産業

静岡市には現在、木製家具、サンダル・シューズ、プラスチックモデル、駿河雑具・雛人形、仏壇、木製雑貨、建具、駿河竹干筋細工、駿河指物、駿河時絵、駿河漆器、駿河塗下駄・張下駄、駿河和染、静岡挽物、木製文具、製材、木工機械、金属製品、ツキ板、缶詰、造船、機械金属、製材(清水区)、染物(清水区)などの地場産業があります。

これらの地場産業は、職人さん達が自分の持っている技術を人の手から手へと伝えながら、その技術にさらに工夫と磨き加わって、現在ある地場産業へと発展してきました。

静岡市の地場産業の中でも、最も代表的なプラスチックモデルは日本一の生産量で、しかも、多くの製品が海外へ輸出されています。このプラスチックモデルは、下駄職人さんの技術や、木工技術が基礎となり、木を加工して飛行機や船などの模型がつくれ、これが現在のプラスチックモデルへと発展してきました。

このように、現在の地場産業は古い歴史と職人さん達の工夫と、努力の中から生れ育ってきたともいえます。

現在、静岡市の地場産業は、後継者不足や職人さんの減少などに加え、輸入製品の増加等により販売競争がますます激しくなる中で、多くの人達が興味を持って愛用してくれる製品を、いかに効率よくつくれるかという大きな問題をかかえています。

今後、このような問題をどう解決していくかが、静岡市の地場産業の発展に大いに影響してくるものと思われれます。

4. 将来への期待

静岡市の歴史や多くのすぐれた技術を基礎に新しい産業が造り出され、これらの産業が日本国内はもとより、世界に誇れる地場産業へと育っていくよう、皆さんの努力が期待されます。

するがしっき
駿河漆器
しよくにん いちにち
職人さんの一日

新井 吉雄 さん
あらい漆工房

静岡市葵区幸町10-6 電話(054)253-8692



自身の技をみかく作品作りや、生活の糧となる仕事などのほか、
伝統の技術を若い人たちに伝えることも職人さんの役目です。

午前8時



塗った漆に「ほこり」などが付かないように、
毎日のそうじは欠かせません。

午後4時



一度作業をはじめると、なかなか途中で止める
ことは出来ません。

午前8時30分



「へら」や「刷毛」などの道具の手入れも毎
日の重要な仕事です。

午前11時



漆は、お椀などの小さな物から、家具などの大
きな物まで、いろいろな物に塗られます。

もっこうしよくにん
木工職人を
わかもの いちにち
めざす若者の一日

野木村 敦史 さん
有限会社インテルナ南條

静岡市葵区牧ヶ谷2114 電話(054)278-5141



いろいろな作業が出来なければ、一人前の木工職人とはいえません。

午前8時



その日の作業の打合せ、準備体操、そして道具
の手入れなどは欠かせない日課です。

午後5時



パソコンを使い製品の設計なども行ないます。
後片付けも大切な仕事です。

午前9時



どうしたら効率よく正確な作業が出来るかいつ
も考えながら、作業をしています。

午後2時



同じ品質の製品を、決められた期限までにつく
ることが最も難しいことです。

する が たけせんすじざい く
駿河竹千筋細工

Suruga Bamboo Lattice Ware

***おもな製品**

盆、うつわ（花器・盛器・菓子器）受皿、電気スタンド、虫かごなど。

***製品の特長**

細く割った竹を丸く加工した「ひご」を、曲げたり、つなぎ合わせたり、組んだりしてつくります。

***つくりかた**

- ①竹を切ったり、割ったり、削ったりして材料をつくる。
- ②「ひご」をつくる。
- ③材料を曲げて「輪」をつくる。
- ④「輪」に穴をあける。
- ⑤「輪」に「ひご」を通して組み立てる。

***おもな材料**

竹：苦竹（まだけ）、孟宗竹（もうそうちく）

***おもに使う道具**

のこぎり、なた、せん台（竹を削って厚みをそろえるもの）、胴乱（竹を曲げるこて）、ボール盤（輪に穴をあける機械）など。

***最もむずかしいところ**

竹の「輪」のつなぎめがわからないようにすること、「ひご」をきれいに曲げることです。

***静岡でできるわけ**

静岡は気候が温暖で、良い竹がたくさんとれます。また、昔は「かさ」や「鳥かご」、「虫かご」などをつくっていましたが、最近では、「花器」や「電気スタンド」などいろいろな種類の生活道具をつくっています。駿河竹千筋細工は伝統的工芸品として国で認められています。

ことば（業界の専門用語）

- 「へぎ」……竹を薄く裂くことです。
- 「くじき」……切り込みの入った竹を細かく割ることです。
- 「せんかけ」……竹を削って厚さをそろえることです。

県内事業所数	13所（平成19年）
県内年間出荷額	160百万円（平成19年）

資料：静岡県経済産業部商工業局（平成20年度調べ）

***組合** 静岡竹工芸協同組合

静岡市葵区五番町3-11 電話(054)252-4924

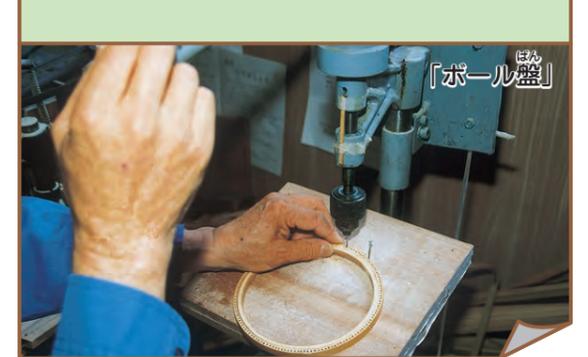
⑩完成（表面を塗って完成です。）



⑨組み立て（輪にあけた穴に「ひご」を通して組み立てます。）



⑧穴あけ（輪に「ひご」を通す穴をあけます。）



⑦曲げ（熱した「こて」を使い「ひご」や材料を曲げます。）



①材料作り（竹を必要な長さに切ります。）



②材料作り（竹の皮は削り、「なた」で必要な寸法に割ります。）



④ひご作り（厚さをそろえた竹に切り込みを入れて割り、先を細く削ります。）



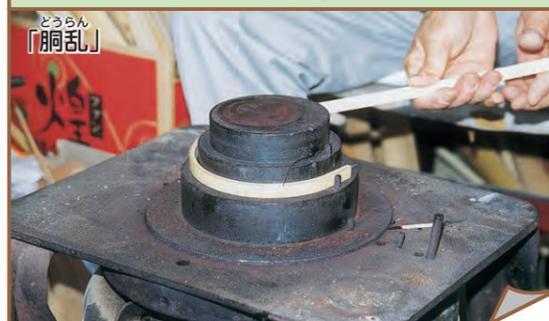
③厚み決め（「せん台」を使い小割した竹の厚さをそろえます。）



⑤ひご作り（細かく割った竹を鉄板の穴に通して丸い「ひご」をつくります。）



⑥輪作り（熱した胴乱に竹を巻きつけて「輪」をつくります。）



するがひなぐ
駿河雛具

Suruga Hina
ParaPhernalia

***おもな製品**

三方、本ぜん、菱台、高杯、たんす、牛車、おかご、ぼんぼり、びょうぶ、ひな壇、人形ケースなど。

***製品の特長**

細かな細工をした製品が多いこと、塗り上がりが美しいことや、蒔絵の模様が華やかなことです。

***つくりかた**

それぞれ専門の職人さんが細かな作業をしています。

- ①木地作り ④金具作り
- ②塗装 ⑤房作り
- ③蒔絵 ⑥仕上

***おもな材料**

ほう、ひのき、アガチスなどの木材と、真ちゅう、アルミニウム、鉄、銅などの金属や、漆やカシュー漆などの塗料。

***おもに使う道具**

のこぎり、かな、ろくろ、紙やすり、へら、はけ、ふで、金づち、たがね、木づちなど。

***最もむずかしいところ**

品質の良い材料をえらぶこと、漆をていねいに塗ることや、蒔絵をきれいに付けることです。

***静岡でできるわけ**

昔から静岡には、「ひな道具」作りですぐれた技術を持った職人さんが大勢いたからです。今では、静岡市の「ひな具」の生産量は全国一（業界調べ）で、「駿河雛具」は伝統的工芸品として国で認められています。

ことば（業界の専門用語）

- 「菱台」……菱餅（菱形をした3～5色のお餅）を盛る菱形の器のことです。
- 「三方（三宝）」……三つの側面にくりぬいた穴がある、食べ物を盛るお膳のことです。
- 「高杯」……お皿に高い足のついた食べ物を盛る器のことです。

県内事業所数	19所（平成29年）
県内年間出荷額	2,489百万円（平成29年）

資料：静岡県「データでみる静岡県の地場産業」(雛具・雛人形製造業)

***組合** 静岡雛具人形協同組合

静岡市駿河区中野新田723 (有望月屏風店内) 電話(054)281-8432



⑨仕立（出来あがった製品をまとめたり、何をつくるのかを決めたりします。）「仕立師」



①木地作り（板を切ったり、削ったりして、雛具の木地をつくります。）「指物師」

④蒔絵（漆で下絵を描いた上に金粉や銀粉などを蒔いて絵をつけます。）「蒔絵師」

⑤金具作り（「たがね」を使い、飾りの金具をつくります。）「金具師」

⑧完成（美しい蒔絵のついた牛車。）

②木地作り（「ろくろ」を使って丸型の木地をつくります。）「挽物師」

③塗装（下塗り、中塗り、上塗りと、漆やカシュー漆などの塗料を何回も塗ります。）「塗師」

⑥房作り（飾りの房をつくります。房の結び方にはたくさんの種類があります。）「房師」

⑦仕上（伝統的な技術を生かして、部品を組み立てます。）「仕上師」

するがひなにんぎょう
駿河雛人形

Suruga Hina Dolls

***おもな製品**

天神雛、三月人形、時代人形、五月人形など。

***製品の特長**

胴体に「稲わら」を使うことと、人形の衣装の上下が別になっていることです。

***つくりかた(胴体部分)**

- ① 稲わらを固めた胴体に、手やヒザをつけます。
- ② 衣装を着せます。
- ③ 人形に動きをつけます。
- ④ 頭(顔)をつけます。

***おもな材料(胴体部分)**

稲わら、和紙、針金、くぎ、木毛、綿、着物(金らん織物・友禅織物)など。

***おもに使う道具**

はさみ、カッターナイフ、ミシン、自打ちなど。

***最もむずかしいところ**

人形の顔の表情や衣装のデザインなどに合わせて、人形に動作をつけることです。

***静岡でできるわけ**

静岡では昔から「天神雛」(菅原道真を形どった農業・学問の神様)を飾る風習があり、雛人形(主に胴体)をつくる職人さんが大勢いるからです。また、静岡は全国一(業界調べ)の胴体の生産地で、「駿河雛人形」は伝統的工芸品として国で認められています。

ことば(業界の専門用語)

「胴がら」……頭(顔)のない胴体のことです。
「振付け」……衣装を着せた人形の両手などを曲げて、雛人形に型をつけることです。

県内事業所数	19所(平成29年)
県内年間出荷額	2,489百万円(平成29年)

資料：静岡県「データでみる静岡県の地場産業」(雛具・雛人形製造)

⑩完成 (小道具などをつければ完成です。)



⑨頭つけ (静岡では主に「胴体」がつくられています。)



①胴組 (胴体のシンは「稲わら」を太く束ねたものです。)



②着せつけ (衣装を着せていきます。)



④着せつけ (衣装は多いもので70種類ぐらいあります。)



③着せつけ (中には綿などを入れて、ふくらみをもたせます。)



⑤振付け (「自打ち」などを使い人形に動作をつけていきます。)



⑥振付け (職人さんの個性が発揮されます。)



⑧胴体の完成 (多くはこの状態で、埼玉・東京・京都などの人形の産地へ送られます。)



⑦振付け (衣装の上質なシワも職人さんの腕次第。)



するがさしもの
駿河指物

Suruga Sashimono

***おもな製品**

文箱、硯箱、盆、盛器、茶道具、飾棚など。

***製品の特長**

木目を生かした丈夫で美しい様々な指物ができることです。

***つくりかた(色紙入れ)**

- ①木取り
- ②反り狂い直し
- ③削り
- ④寸法決め
- ⑤ほぞ作り
- ⑥組み立て接着
- ⑦甲板削り
- ⑧磨き
- ⑨塗装

***おもな材料**

木地には樺、タモ、クリなどの硬い広葉樹がつかわれています。

***おもに使う機械と道具**

木取り台、焼ばん、プレナー、角のみ盤、ルーター、鋸、鉋、やりかな、のみ、けりきなど。

***最もむずかしいところ**

つくる物に合わせて木材を正確に加工すること、材料を組み合わせた箇所を美しく見せることです。

***静岡でできるわけ**

静岡には、昔から木材を加工する優秀な技術をもった職人さんが大勢いるからです。また、静岡は気候が温暖で一年中仕事ができ、東京や大阪などの大きな消費地にも近いからです。

ことば(指物とは)

「指物」:穴をあけたり切り込みを入れたりした板や棒を、金釘を使わずに、指し合わせ組み合わせてつくった木工製品のことで。



県内事業所数	7所(平成19年)
県内年間出荷額	21百万円(平成19年)

資料:静岡県経済産業部商工業局(平成20年度調べ)

***組合** 静岡木工芸組合

静岡市葵区幸町1-8 電話(054)254-8702

⑨塗装(木目を生かすように漆を何回も塗り重ねれば、駿河指物の完成です。)



⑧磨き(蓋板を外枠にはめ込んで接着したら、紙ヤスリで磨いて仕上げます。)



～「色紙入れ」ができるまで～

①木取り(つくる物に合わせて、材料の板をだいたいのおおきさに切ります。)



③削り(横板を「鉋」で必要な厚さに削ります。)



④寸法決め(板を正確なおおきさに切ります。細かな加工には「けりき」を使い線や印をつけます。)



②反り狂い直し(熱した鉄板に材料の板をはさんで、曲がりや反りを直します。)



③削り(蓋板と底板をそれぞれ「鉋」で必要な厚さに削ります。)



⑤ほぞ作り(組み合わせる材料に「のみ」や「鋸」で凹凸をつけます。)



⑦甲板削り(蓋板の裏側や角を鉋で削ります。)



⑥組み立て接着(凹凸に接着剤を塗り、組み合わせてつないだら、底板をはめ込んで接着します。)



しずおかひきもの
静岡挽物

Hikimono
(Wooden Ware)

***おもな製品**

製品には、お盆やお椀、雑道具、おもちゃなどの完成品と、家具や建築用の部品などがあります。

***製品の特長**

新しいデザインを取り入れた木目の美しい製品が多いことと、いろいろな挽物ができることです。

***つくりかた**

- ①木取り
- ②荒挽き
- ③仕上げ挽き
- ④磨き
- ⑤塗装

***おもな材料**

樺、桜、トチ、セン、ぶな、かつらなどの木材。

***おもに使う機械と道具**

材料を回転させる機械…ロクロ機（平たい物用）、ダライ旋盤（長い物用）、ニギリ（小物用）など。

***最もむずかしいところ**
刃物の角度や力の入れ具合を調整しながら、高速で回転する材料をくりぬいたり削ったりして、頭の中に描いた形通りの製品に仕上げることです。

***静岡でできるわけ**

静岡には、優秀な挽物技術を持った職人さんが大勢いて、それぞれの職人さんが、手加工や機械加工により、常に使う人たちに喜ばれる製品をつくっているからです。また、その技術を生かして新しい分野の製品作りにも積極的に挑戦しているからです。

ことば（材料を削る刃物の種類）

「ロクロ機用」：ハスマゲ、シャカ、ミズヒキ、アナクリ、キシヤギなど。

「ダライ旋盤用」：ツッキリ、丸ノミ、平ノミなど。

「ニギリ用」：姿カンナなど。

県内事業所数	5所（平成16年）
県内年間出荷額	18百万円（平成16年）

資料：静岡県経済産業部商工業局（平成17年度調べ）

***組合 静岡挽物組合**

静岡挽物には、一品ずつ丹念に仕上げられた工芸品と、機械加工による量産品があります。



⑤塗装（最後に、塗料を数回塗り重ねれば完成です。コマなどはロクロ機を回転させながらインクで色をつけます。）



①木取り（十分に乾燥させた板を削って、厚みをそろえます。）



②③木を削る（荒挽きで形をついたら、仕上げ挽きで整えます。）



②③木を削る（お盆やお椀など「平たい物」をつくる時には、ロクロ機で材料を回転させて削ります。）



④磨き（回転している材料の表面を、紙ヤスリで磨いて滑らかにします。）



①木取り（つくる製品に合わせて、材料を切ります。）



②③木を削る（材料を回転させて、専用の刃物で削ります。刃物はすべて職人さんの手作りです。）



②③木を削る（専用の刃物には、いろいろな種類があり、つくる製品に合わせて使い分けます。）



②③木を削る（テーブルの足や、階段の手すり飾りなど細長いものは、ダライ旋盤で材料を回転させて削ります。）



静岡挽物
ができるまで

静岡挽物
ができるまで

するがしつき するがまきえ
駿河漆器・駿河蒔絵

Suruga Lacquerware
Suruga Makie (Gold Lacquer)

***おもな製品**

重箱、椀、花器、菓子器、すずり箱、盆、文庫、下駄、アクセサリー、家具、仏壇など。

***製品の特長**

変わった塗り方がたくさんあること、蒔絵のデザインが新しいことです。

***つくりかた**

「漆器」
(約50位の工程があり、完成までには、3ヶ月ぐらいかかります。)
①錆つけ ③漆塗り
②錆研ぎ ④炭研ぎ

「蒔絵」
(約40位の工程があり、完成までには、3ヶ月ぐらいかかります。)
①置目 ③高上げ
②地時き ④すり漆

***おもな材料**

木地：かつら、ほう、くわ、さくら、けやき、きわだなど。
塗料：漆、カシュー漆、金粉、銀粉、金箔など。
その他：らでん（貝がらをうすく切ったもの）
卵のから、まこも（水べにはえる草）など。

***おもに使う道具**

ふで、はけ、へら、粉筒、毛棒など。

***最もむずかしいところ**

温度や湿度などにより変わる
「漆」の状態を確かめながら
「漆」を塗ることで。

***静岡でできるわけ**

昔から静岡には、漆塗りのすぐれた技術を持った職人さんが大勢いたからです。また、常に塗り方や蒔絵のつけ方にいろいろな工夫をしているからです。

ことば（業界の専門用語）

「錆」…木地に塗る生漆と砥の粉を混ぜたもの。
「角粉」…仕上の時に使う、細かな研磨剤。（昔は鹿の角を焼いて粉にしたものを使いました。）
「粉筒」…金粉や銀粉などを時く道具。

	駿河漆器	駿河蒔絵
県内事業所数	14所(平成19年)	16所(平成16年)
県内年間出荷額	100百万円(平成19年)	18百万円(平成16年)

資料：静岡県経済産業部商工業局(平成17年度・平成20年度調べ)

***組合**

静岡漆器工業協同組合

静岡市葵区田町4-39 電話(054)253-6044

静岡蒔絵組合

静岡市葵区桜木町3-9 電話(054)255-5313

⑤磨き（角粉をつけて、きれいに磨きあげれば蒔絵の出来あがりです。）



④高上げ（漆を塗り重ねて、絵に厚みをつけます。）



②～④の作業を蒔絵の色の数だけ繰り返します。

③地時き（粉筒に金粉や銀粉などを入れて、塗った漆の上に時きます。）



②地描き（輪郭に沿って、絵に漆をうすく塗ります。）



⑤角粉磨き（角粉をつけて磨きあげれば、漆器の出来あがりです。）



「駿河蒔絵」

①置目（漆で描いた下絵を裏返して写し、輪郭に銀粉などをつけます。）



「駿河漆器」

①錆つけ（漆がうまつくように、木地に錆つけます。）



②錆研ぎ（余分な錆を研ぎ落して、表面をなめらかにします。）



④炭研ぎ（駿河炭に水をつけて表面を研ぎます。）



③漆塗り（下塗り、中塗り、上塗りと漆を塗ります。）



駿河漆器・駿河蒔絵

ができるまで

駿河漆器・駿河蒔絵

ができるまで

するがぬりげた
駿河塗下駄

Clogs

*おもな製品

紳士・婦人・子供用の塗下駄。

*製品の特長

変わった塗り方がたくさんあることと、絵柄や彫刻が美しいことです。

*つくりかた

約30~40の工程があります。完成までには1ヶ月位かかります。

- ①木地の調整
- ②布着せ
- ③錆付け
- ④漆塗り
- ⑤炭研ぎ
- ⑥彫り
- ⑦色入れ
- ⑧磨き
- ⑨はなお付け

*おもな材料

木地：桐。
塗料：漆、カシュー塗、ウレタン樹脂、金粉、銀粉など、丈夫ではがれにくい特定の塗料。

*おもに使う道具

ふで、はけ、ヘラ、ローラーなど。

*最もむずかしいところ

デザイン(柄)と手法(変り塗り)を上手に組み合わせて、下駄に表現することです。

*静岡でできるわけ

昔から静岡には、すぐれた漆塗りの技術を持った職人さんが大勢いて、いつも品質の良い塗下駄をつくるために努力しているからです。
漆塗りの下駄は、明治時代に静岡の木地職人さんが考案出したといわれています。

ことば(業界の専門用語)

- 「なまず」：研ぎ過ぎて下の層が出ることです。
- 「ふしなし」：ほこりなどが付かないように、きれいに塗ることです。
- 「さいぜん」：研いだ時の水などをふき取る「布」のことです。

県内事業所数	14所(平成16年)
県内年間出荷額	35百万円(平成16年)

資料：静岡県経済産業部商工業局(平成17年度調べ)

*組合

静岡木製はきもの商工業組合
静岡市葵区吉野町1-16 電話(054)252-1231
静岡塗下駄工業組合
静岡市葵区清閑町9-22 電話(054)253-4917
静岡木製はきもの張加飾組合
静岡市葵区土太夫町21-1 電話(054)255-4335

静岡では伝統の技術を生かして、いろいろな種類の塗下駄が作られています。



⑨はなお付け(木地の穴に「はなお」を通して、しっかり結べば駿河塗下駄の完成です。)



①木地の調整(木地を紙ヤスリで磨いて、砥の粉と生漆をねり合わせた「錆」を付けます。)



④漆塗り(木地の表面が滑らかになったら漆を塗ります。)



⑤炭研ぎ(漆を塗り乾いたら、駿河炭に水をつけて研ぐという作業を繰り返します。)



⑧磨き(細かな研磨剤で、表面をていねいに磨きます。)



②布着せ(木地の表面に布をかぶせて、その上からさらに「錆」をつけます。)



③錆付け(錆を付け、乾いたら磨くという作業を2~3回繰り返します。)



⑥彫り(表面に絵や模様を彫ります。)



⑦色入れ(彫った絵や模様の色漆や金粉などを入れます。)



駿河塗下駄
ができるまで

駿河塗下駄
ができるまで

するがわぞめ
駿河和染

Suruga Hand-Dyeing

*おもな製品

テーブルセンター、のれん、壁掛け、風呂敷、バッグ、財布など。

*製品の特長

それぞれの職人さんが染色方法に工夫を凝らして、いろいろな染物をつくっていること、藍色と白色の色合いがはっきりしていることです。

*つくりかた

- ①藍建て ⑤色差し・枯らし ⑨水元
- ②型彫り ⑥中干し(かため) ⑩乾燥
- ③紗張り・型付け ⑦ふせ
- ④型送り・ひき粉まき ⑧本染め

*おもな材料

生地(綿布、麻布、絹など)、すくも、防染糊など。

*おもに使う道具

刀、ヘラ、刷毛、筒、張木、伸子など。

*最もむずかしいところ

すくも(乾燥させた藍の葉)の発酵具合を確かめながら、ちょうど良い色合いの染料をつくること、染色が終わるまで落ちない丈夫な防染糊をつくることです。

*静岡でできるわけ

現在も紺屋(染物屋)町という地名が残っているように、静岡では昔から染物が盛んで、優秀な染色技術を持った職人さんが大勢いるからです。

おもな染色方法には、「型染め」(型紙を使って防染糊を布に置く方法)と、「筒染め」(筒に入れた防染糊で模様を描く方法)があります。

ことば(業界の専門用語)

「風入れ」: 生地を藍がめから出した後、生地が均等に染まるよう空気にさらすことです。

「かため」: 防染糊を丈夫にするための作業をいいます。

「おろす」: 生地を藍がめに入れることです。

県内事業所数	11所(平成19年)
県内年間出荷額	90百万円(平成19年)

資料: 静岡県経済産業部商工業局(平成20年度調べ)

*組合 静岡市染色業組合

静岡市葵区川越町4-19 電話(054)252-6092

⑩乾燥(最後に天日で乾かせば完成です。現在、駿河和染はいろいろな製品に加工され販売されています。)



⑨水元(染めあがった生地を一晩水に浸したら、刷毛で糊などをきれいに洗い落とします。)



～「型染め」(型紙を使って行う染色方法)～

①藍建て(乾燥させた藍の葉にアルカリ水などを入れ発酵させ、染料をつくります。)



④型送り・ひき粉まき(模様がずれないように型付けを繰り返しながら、糊を保護するためのひき粉を蒔きます。)



⑤色差し・枯らし(墨や顔料などで模様を強調し、一旦水に浸したら水から上げ、色がしっかり着くまで待ちます。)



⑧本染め(生地を藍がめに浸したら、空気にさらして発色を待ちます。)



②型彫り(柿渋を塗った和紙に下絵を貼り付け、刀で彫ります。)



③紗張り・型付け(型紙に紗を貼り付けたら、生地に置き、防染糊をヘラでこすりつけます。)



⑥中干し(かため)(本染めに備えて糊を丈夫にするため、生地を藍がめに浸したら乾燥させます。)



⑦ふせ(生地が乾いたら、色に変化をつけたい部分に防染糊でフタをして、糊を保護するためのひき粉を蒔きます。)



いかわ
井川メンパ
Ikawa Menpa

おもな製品

弁当箱（丸形・小判形）、おひつなど。

製品の特長

漆のつやが美しく、丈夫なことです。（漆を塗りかえれば何年も使えます。）
メンパに詰めたご飯は腐りにくいといわれています。

つくりかた

- ①木取り、削り、面取り、木鼻
- ②木殺し
- ③乾燥
- ④カバ縫い
- ⑤底入れ・下地・こくそ
- ⑥面取り
- ⑦錆付け
- ⑧錆研ぎ
- ⑨渋下地・漆本塗り

おもな材料

薄く加工したヒノキの板、山桜の皮、漆、柿渋など。

おもに使う道具

カンナ、ころ、木ばさみ、めさし、ハケ、竹のへら、紙やすりなど。

最もむずかしいところ
温度や湿度に気を配りながら、ホコリがつかないように、漆を塗って仕上げることです。

静岡でできるわけ

むかし金山があった井川地区では、金山で使う曲桶（バケツのような物）などの曲物が盛んにつくられていたようで、そうした技術を受け継いだ人たちが、現在、井川メンパをつくっています。

ことば（呼びかた）

「曲物」： 桧などの薄板をまげてつくった器のことです。（井川メンパは曲物の一種です。）

「メンパ」： 山などで仕事をする人たちが使った今でいう「弁当箱」のことです。

県内事業所数	2所（平成19年）
県内年間出荷額	不明

資料：静岡県経済産業部商工業局（平成20年度調べ）

事業所

望月栄一
静岡市葵区神明町9-11 電話(054)271-8224



最後に湿度を保ったムロで乾かし、木地に漆がなじめば「井川メンパ」の完成です。

⑨渋下地・漆本塗り（全体に柿渋を塗ったら、最後に、本漆を塗って仕上げます。）



⑧錆研ぎ（乾いた錆漆の表面を紙やすりでみがいてなめらかにします。）



①木取り、削り、面取り、木鼻（ヒノキの板を決まった寸法に加工します。）
木鼻…板がかさなる所を薄く加工することです。



④カバ縫い（「めさし」で穴をあけ、薄く加工した山桜の皮でつなぎめを縫い合わせます。）



②木殺し（加工した薄板を熱湯で煮詰めて軟らかくしたら、すぐに「ころ」を使って曲げます。）



③乾燥（曲げた薄板を「木ばさみ」で止め、2～3日天日で乾燥させます。）



⑤底入れ・下地・こくそ（底板を入れ、全体に柿渋を塗ったら、漆で隙間をふさぎます。）
柿渋…渋柿の液を発酵させた防腐・防水用塗料のことです。



⑥面取り（ふちをカンナで丸めます。）



⑦錆付け（底やつなぎめに錆漆を塗って丈夫にします。）



錆漆…生漆と砥の粉を混ぜた接着剤のようなもののことです。

井川メンパ

ができるまで

井川メンパ

ができるまで

しずはたやき
賤機焼

Sizuhata Yaki

***おもな製品**

花瓶、壺、湯のみ、急須、皿、酒器、置物など。

***製品の特長**

普段気軽に使える素朴な物や、芸術的な物など、いろいろな種類の焼物ができることです。

***つくりかた**

- ①水簸調合
- ②脱 水
- ③練 土
- ④成 形
- ⑤仕 上
- ⑥素 焼
- ⑦施 釉
- ⑧本 焼

***おもな材料**

粘土、釉薬原料など。

***おもに使う道具**

ふるい、素焼鉢、土鍊機、ロクロ、竹へら、など。

***最もむずかしいところ**

焼け具合を確かめながら、温度を微妙に調整し、きれいに焼き上げることです。

***静岡でできるわけ**

徳川家康から賤機焼きの称号を受け、窯を開いたのがはじまりといわれていて、文化文政（1804～1828年）の頃には、浅間神社や久能山東照宮、駿府城などで使う器や、茶碗などがつくられていました。

ことば（呼びかた）

「釉 薬」（うわぐすり）
吸水を防ぐために下地全体にかけられる液体のことで、焼き上げると丈夫で光沢のあるガラス質に変化します。中に含まれる金属などの物質の割合を変えることで、様々な色の焼物ができます。

県内事業所数	1所（平成19年）
県内年間出荷額	不明

資料：静岡県経済産業部商工業局（平成20年度調べ）

***事業所** しずはた焼 秋果陶房

静岡市葵区柳町95 電話(054)271-2480

釜から出して十分に冷ませば「賤機焼」の完成です。



⑧本 焼（焼け具合を確かめながら1,200～1,300℃位の高温で焼きます。）



①水簸調合（砕いた土を水に溶かし、ふるいでゴミなど取り除きます。）



②脱 水（底にたまった粘土を素焼きの鉢につして余分な水分を取り除きます。）



③練 土（荒ねりと菊ねりを行い、粘土をしいだいなめらかにします。）



③練 土（ほどよく乾いた粘土を土鍊機でねります。）



④成 形（ロクロを使って、つくりたい物の形に仕上げます。）



⑤仕 上（適度に乾いたら、竹へら等で形を整えます。）



⑦施 釉（模様やつやを出すために「うわぐすり」をかけます。）



⑥素 焼（室内で完全に乾かしたら、次に800～850℃の低い温度で焼きます。）



賤機焼

ができるまで

賤機焼

ができるまで



***おもな製品**

たんす、ドレッサー、食器だな、食堂テーブル、いす、本だな、サイドボード、リビングボード、組立家具など。

***製品の特長**

塗装がきれいで品質の良い、いろいろな種類の家具ができることです。

***つくりかた(食器だな)**

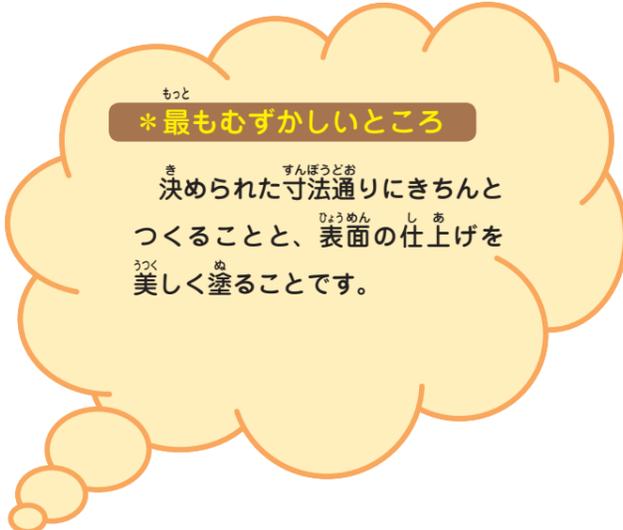
- ① 切り回し
- ② 接着
- ③ 加工
- ④ 塗装
- ⑤ 組み立て・まとめ
- ⑥ 検査・梱包
- ⑦ 出荷

***おもな材料**

けやき、なら、ぶな、さくら、チーク、くるみなどの木材

***おもに使う機械**

NCルーター・自動のこぎり機、コンピューター付かな盤・穴あけ機、はりつけ機、組み立て機など。



***静岡でできるわけ**

静岡は東京や大阪などの大都市に近く、製品を送るのに便利で、材料の木材が入ってくる港も近いからです。また、昔から「木工」や「漆塗り」などのすぐれた技術者が大勢いて、積極的に新しい商品を開発しているからです。静岡県は全国屈指の総合家具産地です。

ことば(業界の専門用語)

- 「フラッシュボード」………木材で組んだ枠の両面に、合板を貼り合わせた板のことで。
- 「ほぞ」………二つの板を組み合わせるために材料に彫るみぞと、出っばりのことです。
- 「だぼ」………材料をつなぎ合わせるために使う小さな丸い棒のことで。

県内事業所数	155所(平成29年)
県内年間出荷額	41,983百万円(平成29年)

資料：静岡県「データでみる静岡県の地場産業」(木製家具製造業)

***組合** 静岡県家具工業組合

静岡市葵区駒形通6丁目8-21 電話(054)254-7201



⑨出荷(できあがった家具は、全国へ送られます。)



①切り回し(板材や角材を決められた寸法通りに切り、部品をつくります。)



④加工(部品に「だぼ」を打ちこむための穴をあけます。)



⑤塗装(部品の表面をみがき、塗料をぬります。)



⑧検査・梱包(一つ一つ検査して包みます。)



②接着「フラッシュ構造」(部品に接着剤をつけて機械で押さえます。)



③加工(部品の側面を削って大きさをそろえます。)



⑥部品の保管(加工された部品は、種類別に整理しておきます。)



⑦組み立て・まとめ(部品を組み合わせて、扉や金具などを付けます。)



木製家具
ができるまで

木製家具
ができるまで



***おもな製品**

木製宝石箱、木製台所用品、ソーイングボックス、ミニ家具、インテリア小物、木製楽器、木製記念品など。

***製品の特長**

デザインがすぐれていることと、いろいろな種類の製品ができることです。

***つくりかた**

- ①木取り
- ②刻み
- ③組み立て・接着
- ④木地研磨
- ⑤下地塗装
- ⑥塗装研磨
- ⑦仕上げ塗装
- ⑧布貼り
- ⑨まとめ

***おもな材料**

タモ、セン、ナラ、アガチスなどの木目の美しい木材。

***おもに使う機械**

傾斜盤、NCルーター、プレナー、パネルソー、電動ドライバー、サンダーなど。

***最もむずかしいところ**

温度や湿度などにより、伸びたり縮んだりする木材の性質を考えながら、製品に仕上げることです。

***静岡でできるわけ**

木材をいろいろな物に加工する技術が高く、使う人たちの要求にあった様々な製品をつくることのできるからです。

また、常に新しい製品の開発にも積極的に取り組んでいるからです。

ことば（業界の専門用語）

「継手」：材料のつなぎ合わせる箇所に凹凸をつくり、それをかみ合わせて材料をつなぐことです。

「留め」：材料の端を45度に削り、それをさし合わせて材料をつなぐことです。

県内事業所数	5所（平成29年）
県内年間出荷額	不明

資料：静岡県「データでみる静岡県の地場産業」(木製雑貨製造業)

***組合 静岡雑貨組合**

静岡市駿河区曲金3-1-10 特産協内 電話(054)281-2999



静岡は、いろいろな物ができる木製雑貨の総合産地として全国に知られています。

⑨まとめ（止め金具や蝶番などを取り付けてまとめれば木製雑貨の完成です。）



①木取り（十分に乾かした板を必要な長さに切ります。）



④木地研磨（木地の表面を紙ヤスリで磨いて平にします。）



⑤下地塗装（木地に色を塗ったら、次に表面を滑らかにするための塗料を吹き付けます。）



⑧布貼り（木製雑貨には、宝石箱やソーイングボックスなど、内側に布を貼った製品がたくさんあります。）



②刻み（つくる製品の寸法に合わせて、切ったり削ったりします。）



③組み立て・接着（必要な穴や溝などを付けたら、接着剤を塗って組み立てます。）



⑥塗装研磨（下地塗装が乾いたら、塗装した表面が滑らかになるまで紙ヤスリで磨きます。）



⑦仕上げ塗装（仕上げ用の塗料を吹き付けます。）

もくせいぶんぐ
木製文具

Wooden Calligraphy Accessories

木製文具
ができるまで

おもな製品

静岡では、印箱やスケッチ箱などの「木製文具箱」をはじめ、「木製救急箱」や「ソーイングボックス」などがつくられています。

製品の特長

「ほぞ」(木材をつなぎ合わせるための凹凸)で材料を組み合わせてあるため、壊れにくく丈夫で長持ちすることです。

つくりかた(木製救急箱)

- ①木取り
- ②削り・寸法決め
- ③ほぞ切り
- ④組み立て・接着
- ⑤切断・研磨
- ⑥表面加工
- ⑦塗装・印刷
- ⑧部品付け

おもな材料

アガチス、ツガ、センなどの木材

おもに使う機械

傾斜盤、ボール盤、ルーター、ハンドソー、ロッキングなど。

最もむずかしいところ

木材を正確に加工すること、「蓋」と「物をいれる部分」がずれないように金具(蝶番や止め金具など)を取り付けることです。

静岡でできるわけ

静岡は、昔から漆器(漆塗りの硯箱や文庫など)作りが盛んで、木材をいろいろな木製品に加工する優秀な技術をもった職人さんが大勢いるからです。

また、職人さん達が長年の経験と技術を生かして、品質の良い製品をつくるために、いつも努力しているからです。

ことば(業界の専門用語)

「ハギ」: 板と板をつなぎ合わせることです。
「イモ付け」: 材料に組み合わせるための加工をしないで、材料と材料を直接つなぎ合わせることです。

「木製雑貨」に同様

県内事業所数	5所(平成29年)
県内年間出荷額	不明

資料: 静岡県「データでみる静岡県の地場産業」(木製雑貨製造業)

組合 静岡木製クラフト



⑩梱包・発送(出来あがった製品は、傷がつかないように箱に入れて、全国へ送られます。)

⑨完成(現在、木製の救急箱は、静岡だけでしかつくられていないといわれています。)



～「木製救急箱」ができるまで～

①木取り(十分に乾かした板を必要な長さに切ります。)

④組み立て・接着(凹凸をつないだら、表と裏に板を張り付け、切れ目のない直方体の箱をつくります。)

⑤切断・研磨(直方体の箱を「蓋」と「物を入れる部分」の二つに切断し、紙ヤスリで磨いて仕上げます。)

⑧部品付け(止め金具や蝶番、持ち手などを取り付ければ「木製救急箱」の完成です。)

②削り・寸法決め(必要な厚さに削った板をつくる製品の幅に合わせて切ります。)

③ほぞ切り(箱の側面になる板の両端に、つなぎ合わせるための凹凸を付けます。)

⑥表面加工(表面を滑らかにするための塗料を塗り、乾いたら紙ヤスリで磨きます。)

⑦塗装・印刷(艶だし用の塗料を塗り、乾いたら蓋の表面に文字と印を印刷します。)

木製文具
ができるまで

ぶつ だん
仏 壇

Family Buddhist Altar

仏壇
ができるまで

おもな製品

仏壇には大きく分けて「金仏壇」（金箔を張った仏壇）と「唐木仏壇」（木目の美しい堅い木を使った仏壇）がありますが、静岡では「唐木仏壇」が主流です。

製品の特長

木地師、塗師、加飾師など専門の職人さんたちの技術と工夫により、丈夫で美しい仏壇ができることです。

つくりかた

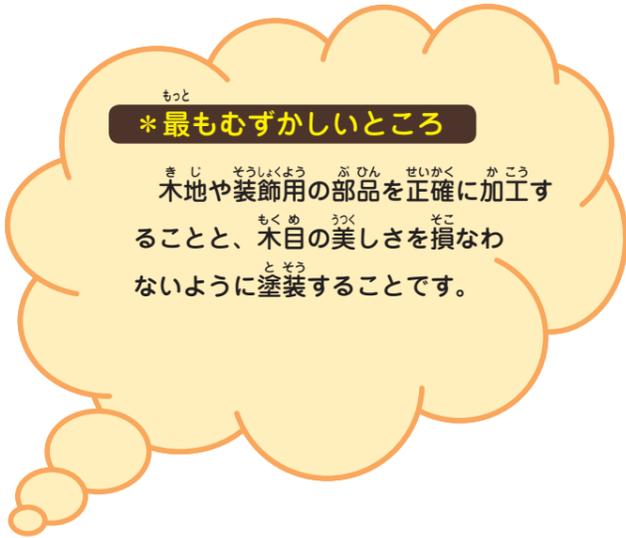
- ① 空張
- ② 木地加工・枠組み
- ③ 障子組子作り
- ④ 飾り作り
- ⑤ 塗装・研磨
- ⑥ 組み立て
- ⑦ 検査・梱包

おもな材料

紫檀、黒檀、鉄刀木、屋久杉、桜、花梨、樺、桑、楠などの木材。

おもに使う機械

NCルーター、プレナー、ボール盤、ミシンのこ、傾斜盤など。



それぞれの工場で、専門の職人さんが作業をしています。



静岡でできるわけ

静岡には、優秀な木工技術や塗装技術を持った職人さんが大勢いて、いつも品質の良い仏壇をつくるために、いろいろな工夫をしているからです。また、現代の住宅事情や、生活様式に合った新製品の開発にも積極的に取り組んでいます。

静岡県は仏壇の一大産地です。

ことば (業界の専門用語)

「練り」: 5~7mmの板を木材に接着することです。

「張」: 0.2mm位の突板(木目などが美しい木材から刃物でうすく削ぎ取った板)などを木材に接着することです。

県内事業所数	27所 (平成29年)
県内年間出荷額	3,999百万円 (平成29年)

資料: 静岡県「データでみる静岡県の地場産業」(仏壇製造業)

組合 静岡仏壇卸商工業協同組合

静岡市葵区駒形通5-2-7 電話 (054) 255-9126



仏壇
ができるまで

たて ぐ
建 具
Home Furnishings

建 具

が でき る ま で

*** おもな製品**

障子、ふすま、ガラス戸、格子戸、フラッシュ戸、衝立など。

*** 製品の特長**

使う人の好みに合わせて、いろいろな形の建具ができることです。

*** つくりかた (障子・ガラス戸)**

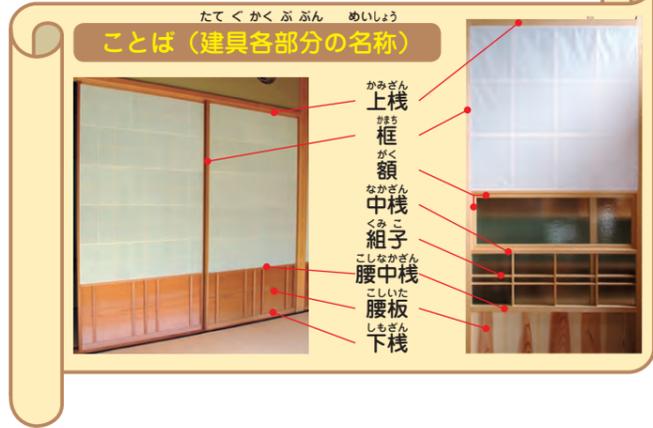
- ①木取り
- ②削り
- ③墨付け
- ④ほぞ穴加工
- ⑤ほぞ加工
- ⑥溝付け加工
- ⑦腰板削り
- ⑧組み立て

～ 障子・ガラス戸ができるまで ～



*** 静岡でできるわけ**

静岡には、優秀な建具技術をもった職人さんが大勢いて、常に丈夫で美しい建具をつくるために努力しているからです。ただ、近年は金属製建具の増加により、伝統的な技術を生かした昔ながらの木製建具作りの仕事は減りつつあります。



県内事業所数	65所 (平成29年)
県内年間出荷額	12,211百万円 (平成29年)

資料：静岡県「工業統計調査報告書」(従業員4人以上の事務所) 建具製造業

職人さんの高度な技術によってつくられた木製建具は、日本建築に欠かすことができないものです。



⑧組み立て (加工したそれぞれの材料に、接着剤を塗って組み立てます。)



⑦腰板削り (板の表面を削って滑らかにします。)



⑥溝付け加工 (傾斜盤などで、材料にガラスや板をはめ込むための溝を付けます。)



建 具

が でき る ま で

もっこう き かい
木工機械

Woodworking Machinery

***おもな製品**

のこ盤、かな盤、刃物研削盤、ほぞ取り盤、角のみ盤、サンダー、ルーター、プレカット機械、塗装機など。

***製品の特長**

機械の精度が高いことと、効率よく正確な加工が行えるいろいろな機械が出来ることです。

***つくりかた**

- ①製品企画
- ②開発設計
- ③製品情報の登録
- ④材料の調達
- ⑤機械加工
- ⑥組み立て
- ⑦塗装
- ⑧電装組み付け
- ⑨整備調整

***おもな材料**

鋳物、鋼材、プラスチック、ゴム、電装部品など。

***おもに使う機械**

旋盤、フライス盤、ボール盤、マシニングセンターなど。

***最もむずかしいところ**

材料や部品をていねいに加工すること、正確に組み立てることです。

***静岡でできるわけ**

木工業が盛んな静岡には、木工機械を使って「家具」や「住宅の材料」などをつくる工場がたくさんあるからです。昔は職人さんが手作業で行っていた木材の加工も、現在ではそのほとんどが木工機械で行うことができます。静岡県は木工機械の一大産地です。

ことば（業界の専門用語）

「プレカット」：住宅などに使う木材を前もって工場の自動工作機械などで加工することです。
「CAD/CAM」：設計と生産の手助けをするコンピューターの仕組みのことです。

県内事業所数	28所（平成29年）
県内年間出荷額	13,233百万円（平成29年）

資料：静岡県「データでみる静岡県の地場産業」(木工機械製造業)

静岡では木材を切ったり削ったりする「いろいろな種類」の木工機械がつくられています。



⑨整備調整、⑩出荷（最後に機械の精度を確かめて細かな調整をすれば木工機械の完成です。）



①製品企画（使う人たちに喜ばれる機械を考えて、製品にする方法を決めます。）



④材料の調達（必要な材料や部品などを取りそろえます。）



⑤機械加工（つくる製品に合わせて、部品や鋼材などを加工します。）



⑦塗装、⑧電装組み付け（機械に塗料を塗り、モーターやコンピューターなどの細かな電気配線を行います。）



②開発設計（コンピューターを使いつくる機械の設計図を作成します。）



③製品情報の登録（機械をつくるために必要な部品や、つくる手順などをコンピューターに登録します。）



⑤機械加工（材料を加工する刃物と、加工された材料）



⑥組み立て（図面を見ながら部品を組み立てます。）



きんぞくせいひん
金属製品

Metal Products

*おもな製品

静岡では、家具金物、建築金物、釣具、自動車部品、電気部品、金型など、いろいろな金属製品が作られています。

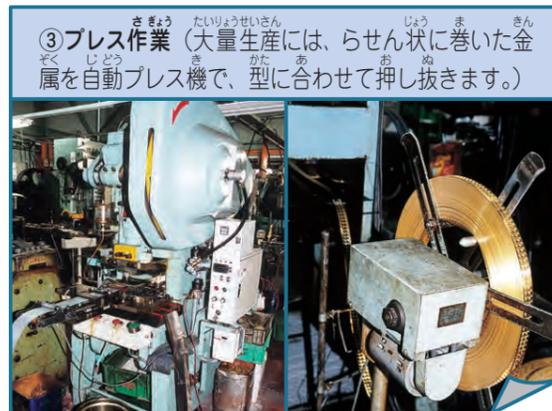
*製品の特長

金属を正確に加工する技術が高く、丈夫で品質の良い製品が出来ることです。

*つくりかた「家具金物」(蝶番)

- ①材料の準備
- ②金型作り
- ③プレス作業
- ④加工作業
- ⑤心棒作り
- ⑥心挿し
- ⑦研 磨
- ⑧と 装

～「家具金物」(蝶番) ができるまで～



*静岡でできるわけ

静岡では、昔から漆器や雑道具、家具作りが盛んで、そうした製品に付ける金具や蝶番なども、次第に静岡でつくられるようになったからです。
現在では、家具金物以外にも、それぞれの会社が得意とする様々な金属製品が静岡ではつくられています。

ことば(業界の専門用語)

- 「ガラ鍍金」: 専用の樽の中に、一度にたくさんの金具を入れて同時にメッキ加工することです。
- 「たすき」: ソーイングボックスなどの蓋を支える金具のことです。
- 「受けだぼ」: 止め金具を受ける出っ張りのことです。

県内事業所数	不 明
県内年間出荷額	不 明

*おもな材料

鉄、真ちゆう、ステンレスなどの金属。

*おもに使う機械

プレス機、ワイヤーカット、ボール盤、流動パレル機、直線機など。

*最もむずかしいところ

蝶番では、硬くもなく、ゆるくもなく、都合よく滑らかに動くように、加工した二つの金属を心棒でつなぎ合わせることです。





***おもな製品**
 木製家具、建築内装材（壁・フローリング・天井など）
 楽器、車両内装（車・列車）などの表面材として使
 われています。

***製品の特長**
 選び抜かれた天然の原木を薄く削って作られたツキ板は、
 割れたり反ったりしにくく、曲げることもできます。

- *つくりかた（天然木化粧板ができるまで）**
- ①ツキ板用原木の選定 ②木取り（製材）
 - ③ツキ板用フリッチ
 - ④切削（スライド単板・ロータリー単板・ハーフローター単板）
 - ⑤ツキ板乾燥（自然乾燥・高周波乾燥・ロール乾燥・熱風乾燥） ⑥ツキ板製品
 - ⑦ツキ板貼り合わせ作業 ⑧貼り付け（ホットプレス）
 - ⑨化粧合板の研磨 ⑩天然木ツキ板を使った内装

***おもな材料**
 樺・榎・タモ・樺・桂・オーク・ウォールナット、
 檜・杉・松・ヒバ、カリン・チーク・黒檀、サペリ・
 マコーレ・ピンガなど100種類を超える木材。

***おもに使う機械と道具**
 「製材機」、「スライサー・ロータリー」、「ホットプレス」など。
 「ツキ板」の厚みは
 ・薄物(0.12mm~0.4mm)・厚物(0.55mm~1.0mm)
 ・特厚物(1.0mm~3.0mm)に分類されます。

***最もむずかしいところ**
 木口（切り口の年輪）を念入りに調べ
 て、特別な技術で世界にふたつとな
 い木目の「ツキ板」を作ることです。

***静岡でできるわけ**
 昔から静岡では木製の家具がたくさん作られていて、そ
 うした家具の表面を飾る「ツキ板」をはやく作る機械や、
 電気式の機械が静岡で開発されたからです。

ことば（業界の専門用語）

「突板（ツキ板）」：木材を手鋸で押して突いて作った
 板が語源です。

「柎目」：丸太の中心に向かって挽くと現れ
 る、年輪が平行な木目のこと。

「板目」：丸太の中心からずらして挽くと現
 れる、年輪が山形や筍型の木目の

県内事業所数	3所
県内年間出荷額	不明

（静岡ツキ板協同組合調べ）

***組合** 静岡ツキ板協同組合
 静岡市葵区研屋町21番201号 電話(054)273-3732



⑨化粧合板の研磨（表面を数回研磨し、検査が済んだら
 家具の表面材や、建築の内装建材などとして出荷します。）



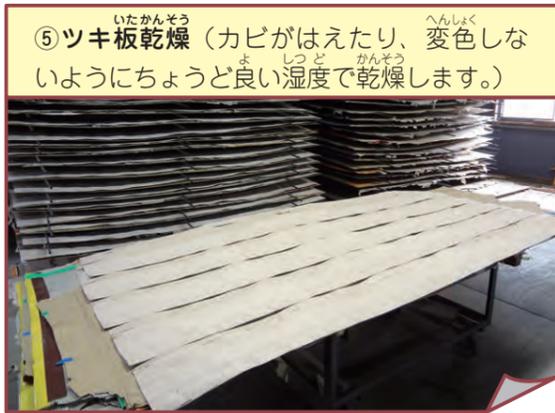
ワイドサンダー…ツキ板の表面を滑らかに
 研ぐ機械



①ツキ板用原木の選定（国内外から集められ
 た原木の中から、美しい木目の丸太を選びます。）



④切削（ツキ板を削る機械には、平らに削るスライサー
 と、丸く回転して削るロータリーの2種類があります。）



⑤ツキ板乾燥（カビがはえたり、変色しな
 いようにちょうど良い湿度で乾燥します。）



⑧貼り付け（ホットプレス）（合板に貼られたツキ板は、
 100℃を越す高圧ホットプレスで熟圧・接着されます。）



②木取り（製材）（原木を製材工場に一定の
 長さ、幅、厚さに加工します。）
 製材機…原木(丸太)を加工する機械



③ツキ板用フリッチ（製材をして、ツキ板を削
 るために柎目・板目などのフリッチにします。）
 フリッチ…丸太をツキ板にスライスできる
 状態に製材した木材



⑥ツキ板製品（ツキ板は丁（ちょう）とい
 う単位で数えます。）



⑦ツキ板貼り合わせ作業（合板の上に木目を
 きっちり合わせて貼り付けます。）

ツキ板

ツキ板

ができるまで

ができるまで

サンダル・シューズ

Sandals・Shoes

*おもな製品

紳士・婦人・子供用のサンダル・シューズなど。

*製品の特長

履きやすく、いろいろなデザインのものがあることです。また、シューズでは、材料に牛皮を使った婦人用（若い女性向き）のものが多いことです。

*つくりかた（皮製のシューズ）

- ①製品企画
- ②裁断
- ③ふち折り
- ④ミシン加工
- ⑤吊り込み
- ⑥成型
- ⑦起毛
- ⑧底付け
- ⑨圧着

「シューズ」

①製品企画（まず、靴の形を考えて、足型を描いた紙型をつくります。）



②裁断（紙型をもとに金属の抜き型をつくり、裁断機で材料の皮を押し切ります。）



④ミシン加工（裁断した皮をぬい合わせて、アッパーをつくります。）



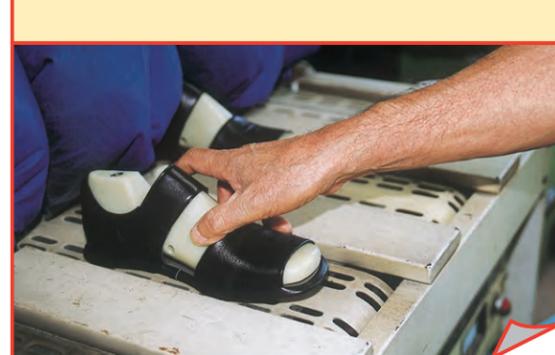
③ふち折り（皮のふちは、うすくすいて折り曲げます。）



⑤吊り込み（靴のアッパーを足型にかぶせて、底にあたる部分を吊り込みます。）



⑥成型（蒸気をあてて靴の形を整えます。）



⑧底付け（接着剤を塗って、アッパーと底をはり合わせます。）



⑦起毛（接着剤がしっかりつくように、吊り込んだ部分にワイヤブラシをかけます。）



⑩完成（検査がすんだ製品は、箱につめられて全国に送られます。）



⑨圧着（圧力をかけて、アッパーと底が完全に接着すればシューズの出来あがりです。）



*おもな材料

牛皮革、ゴム材、塩化ビニール、布生地
かたいボール紙、スポンジなど。

*おもに使う機械

裁断機、ミシン、トーラスター（自動吊り込み機）、乾燥機、起毛機、圧着機など。

*最もむずかしいところ

材料（主にシューズでは牛皮）の性質にあった製品をつくること、新しいデザインを考えることです。

*静岡でできるわけ

昔から静岡にたくさんあった下駄の工場が、サンダルやシューズなどの生産をはじめたからです。また、常に新しい技術やデザインなどの研究もしているからです。最近では、履きやすい「靴」の開発も盛んに行われています。

ことば（業界の専門用語）

- 「ラスト」…… 足型のことです。
- 「アーチ」…… 足の裏の反った部分のことです。
- 「ワイズ」…… 足の甲にあたる寸法のことです。
- 「アッパー」…… 靴の上側部分のことです。

県内事業所数	3所（平成29年）
県内年間出荷額	不明

資料：静岡県「データでみる静岡県の地場産業」(サンダル製造業)

*組合 静岡サンダル工業協同組合

静岡市駿河区曲金3-1-10 特産協内 電話(054)202-9077

サンダル・シューズ

ができるまで

サンダル・シューズ

ができるまで

プラスチックモデル

Plastic Model Kits

*おもな製品

自動車、船、飛行機、建物、アニメの主人公などの「プラスチックモデル」や「ラジコンカー」。

*製品の特長

実物をそっくり小さくした精密なモデルで、新しい形も次々に取り入れています。電気で動くいろいろな仕掛けをしたものもあります。

*つくりかた

- ①製品企画
- ②資料収集
- ③設計
- ④金型をつくる
- ⑤プラスチック成形
- ⑥部品をセットして包装する。

***おもな材料**
スチロール樹脂、ナイロン樹脂、ABS樹脂など。

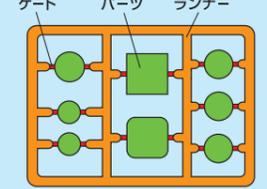
***おもに使う機械**
金型製作用の彫刻機、コンピューター付金属かな盤、プラスチック成形機など。

***最もむずかしいところ**
プラスチックを流し込む「金型」を細かいところまできちんとつくること、キズがつかないようにしっかり管理することです。

***静岡でできるわけ**
静岡は昔から木工業が盛んで、すぐれた技術者により、たくさんのおもちゃができました。そうした技術がプラスチックの加工にいかされて、多くのプラスチックモデルができるようになりました。現在日本でできるプラモデルの約8割が静岡市でつくられています。

ことば（業界の専門用語）

「パーツ」：組み立てに必要な部品。小さな部品は切り取らずに塗装すると便利。
 「ランナー」：とけたプラスチックの通り道。組み立てにはいらぬ部分だけ、ランナーがないと部品ができません。
 「ゲート」：ランナーとパーツをつなぐ部分。もぎ取ったりしないで、ニッパーなどで丁寧に切り取る。



県内事業所数	15所（平成29年）
県内年間出荷額	18,343百万円（平成29年）

資料：静岡県「データでみる静岡県の地場産業」(プラモデル製造業)

***組合** 静岡模型教材協同組合
静岡市駿河区恩田原3-7(株)タミヤ本社内 電話(054)286-5105

⑩完成（組み立て、塗装すれば、世界で1台のモデルが完成。）



⑨出荷（段ボール箱につめられて、日本はもちろん世界中に送られます。）



①製品企画（プラスチックモデルにするものを決めます。）



④設計（車のボディなどはコンピューターの画面で形を確かめます。）



⑤金型（コンピューターで制御された機械で金属を彫り、金型をつくります。）



⑧セット（模型の部品を検査して箱詰めします。）



②資料収集（製品をつくるために実物を取材したり、資料を集めます。）



③設計（細かな部品の一つ一つまでを図面にします。）



⑥金型（金型の表面はていねいにみがかれて仕上げられます。）



⑦成形（金型を成形機にとりつけて、熱で溶かしたプラスチックを流しこみます。）



プラスチックモデル

ができるまで

プラスチックモデル

ができるまで

お茶 Green Tea

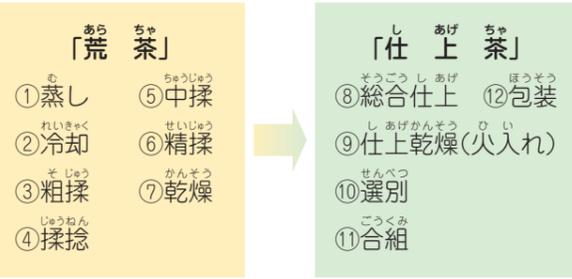
* 緑茶（日本茶）の種類

せん茶、深むし茶、玉露、抹茶、番茶、ほうじ茶、茎茶、ぐり茶、玄米茶など。

* 静岡茶の特長

色がきれいで香りが良く、おいしいことです。

* つくりかた（加工の工程）



*** おもな材料**
茶の葉：茶の木はツバキ科に属する常緑の灌木（低木）です。

*** おもに使う機械**
「荒茶」：蒸機、冷却機、粗揉機、揉捻機、中揉機、精揉機、乾燥機など。
「仕上げ茶」：総合仕上機、仕上げ乾燥機（火入れ機）、選別機、合組機、包装機など。

*** 最もむずかしいところ**
とれる時期や、とれる場所などによりちがう「お茶」の状態をたしかめながら、おいしい製品に加工することです。

*** 静岡でできるわけ**
静岡の気候がお茶をつくるのに適しているからです。また、茶業に関係する人たちが、常においしいお茶をつくるために努力しているからです。
静岡市は現在もお茶の生産・流通両方のはたらきを持った「お茶の街」として発展を続けています。

ことば（業界の専門用語）
「ミル芽採り」……若くてやわらかい新芽を摘むことです。
「親値」……生産者などがのぞむ荒茶の取引価格のことです。
「本山茶」……安倍・葦科川上流の山あいので育ったお茶のことです。

県内茶栽培面積	15,900ha（令和元年）
県内荒茶生産量	33,400 t（平成30年）

出典：「令和元年果樹及び茶栽培面積（7月15日現在）」農林水産省
出典：「平成30年産茶の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）」農林水産省

*** 組合** 静岡茶商工業協同組合
静岡市葵区北番町81静岡県茶業会館 電話(054)271-1955



お茶
ができるまで

お茶
ができるまで

わさび漬 つけ

Wasabi (Hoseradish)

* おもな製品 せいひん

わさび漬、わさびのり、しょうゆ漬など。

* 製品の特長 せいひん とくちょう

静岡のわさび漬は、風味の良さと、ほどよい辛さが特長で、静岡の名物として全国に知られています。

* つくりかた

- ① 選別 せんべつ
- ② 細断 さいだん
- ③ 洗浄 せんじょう
- ④ 塩漬 しおづけ
- ⑤ かくはん かくはん
- ⑥ 充填 じゅうてん
- ⑦ 包装 ほうそう
- ⑧ 発送 はっせう

* おもな材料 ざいりょう

わさびの根・茎、酒粕、調味料など。

* おもに使う機械 つか きがい

スライサー、洗浄機、練りこみ機、充填機、包装機など。

最もむずかしいところ
毎日同じ辛さの「わさび漬」をつくること、時間が経っても「わさび漬」から辛さがなくなるようにすることです。

* 静岡でできるわけ

静岡には、わさびを育てるのに適した山間の「涼しい場所」と、きれいな「わき水」がたくさんあるからです。安倍川上流の有東木地区が「わさび栽培発祥の地」といわれています。

ことば (わさび各部分の名称)



「根茎」…ふつうは根とよびます。1番から10番までです。



「花」…3月ごろに白くかわいい花をつけます。
「葉」…葉の裏に付いています。からみはとても弱いです。

県内わさび産出額	42億円 (平成29年)
県内水わさび栽培面積	113.2ha (平成29年)

出典：「平成29年生産農業所得統計」農林水産省
注意：全国値は産出額が1億円以上の都道府県のみを集計
出典：「平成29年特用林産基礎資料」林野庁

* 組合 静岡県漬物商工業協同組合

静岡市葵区八千代町13 電話 (054) 251-3916



⑦ 包装 (辛味が逃げないようにしっかり包装します。)



⑥ 充填 (木樽やカップなどに詰めます。)



① 選別 (安倍川上流の産地などから入荷した「わさび」をていねいに選別し、茎と根にわけます。)



③ 洗浄 (きざんだ「わさび」を、もう一度ていねいに水洗いします。)



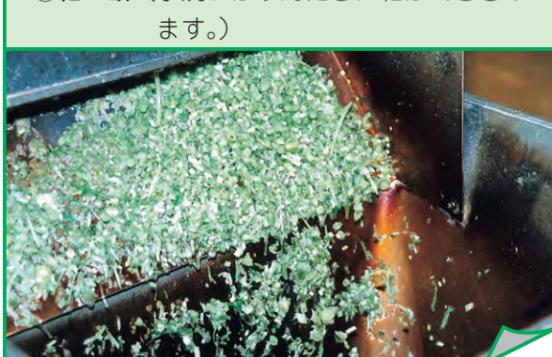
④ 塩漬 (茎の部分は一晩、根の部分は短時間それぞれ塩水に漬けます。)



② 細断 (まず、軽く水洗いします。)



② 細断 (水洗いがすんだら、細かくきざみます。)



⑤ かくはん (塩漬された根と茎に、酒粕・調味料を混ぜ合わせます。)



⑤ かくはん (わさび漬の味を決める大切な作業です。)



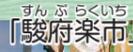
わさび漬
が
で
き
る
ま
で

わさび漬
が
で
き
る
ま
で

しずおか特産品見聞録

とくさんひんけんぶんろく
 ～特産品を見ることが出来る主な「施設」・「展示場」・「見本市」(一般公開日)・工場・工房など～

するがしつき 駿河漆器・するがまきえ 駿河蒔絵・するがたけせんすじざいく 駿河竹千筋細工 / サンドル・シューズ



静岡市駿河区丸子3240-1 (054)256-1521



静岡市葵区黒金町47番地アステ静岡内 (054)251-1147

お茶

きんだいてき 近代的な

荒茶工場



有限会社ネクト(静岡市葵区新聞2332番地) (054)277-2111



むかし 昔ながらの

仕上げ茶工場



有限会社和田長治商店(静岡市葵区安西4丁目51) (054)252-4300



もくせいかく 木製家具

ひら 静岡市で開かれる

「スズオカ[KAGU]メッセ」



静岡県家具工業組合 (054)254-7201



するがひなく 駿河雑具 / するがひなにんぎょう 駿河雑人形



静岡雑具人形協同組合



プラスチックモデル

「プラモデルメーカーの展示場」



株式会社タミヤ 静岡市駿河区恩田原3-70 (054)286-5105

《ショールーム》



ひら 静岡市で開かれる「ホビーショー」



静岡模型教材協同組合 (054)286-5105



しずおか特産品見聞録

とくさんひんけんぶんろく
 ～特産品を見ることが出来る主な「施設」・「展示場」・「見本市」(一般公開日)・工場・工房など～



もくせいざっか 木製雑貨



静岡雑貨組合 (054)281-2999

たて 建具



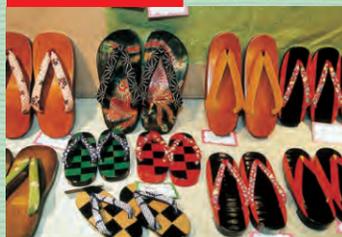
静岡建具組合

するがさしもの 駿河指物



静岡木工芸組合 (054)254-8702

するがぬりげた 駿河塗下駄



静岡木製はきもの商工業組合 (054)252-1231
 静岡塗下駄工業組合 (054)253-4917
 静岡木製はきもの張加飾組合 (054)255-4335

するがわぞめ 駿河和染



静岡市染色業組合 (054)252-6092

しずおかひきもの 静岡挽物



静岡挽物組合

もくせいぶんく 木製文具



静岡木製クラフト

きんぞくせいひん 金属製品



株式会社秋山金属製作所 静岡市駿河区東新田1-14-20 (054)259-9640

いた ツキ板



静岡ツキ板協同組合 (054)273-3732

わさび漬



「見る工場」STEP IN たまるや 静岡市駿河区下川原5-34-20 (054)256-1188

注意：見本市や展示会の開催日・会場などについては、各組合にお問い合わせ下さい。
 また、工場や職人さんの工房などを訪問するさいには、必ず事前に連絡して下さい。

注意：見本市や展示会の開催日・会場などについては、各組合にお問い合わせ下さい。
 また、工場や職人さんの工房などを訪問するさいには、必ず事前に連絡して下さい。

本冊子のタイトルにある「解体新書」とは、1774年に前野良沢・杉田玄白・中川淳庵らによって著された日本で最初の本格的な西洋医学の翻訳書で、その正確・緻密な内容は、当時の世の中に大きな影響を及ぼしたものと思われています。

そこで、本冊子も、静岡で生まれ育った地場産品が出来るまでの現在の工程を業種別に分解し、わかりやすく紹介することで、地場産業とは何かを考え直す一つのきっかけになればと考えて、「しずおか特産品解体新書」としました。

なお、それぞれの地場産品をつくるうえで、この冊子で紹介している方法が唯一というわけではありませんが、生産現場や生産工程などの取材にあたっては、その分野では現在、パイオニア的存在といわれる企業や職人さんに協力をお願いしました。

～地場産品ができるまで～
しずおか特産品解体新書

平成12年9月 第一巻第1版発行
平成14年8月 第二巻第1版発行
平成18年8月 合併号第1版発行
平成19年9月 合併号第2版発行
平成20年11月 合併号第3版発行
平成21年9月 合併号第4版発行
平成22年9月 合併号第5版発行
平成23年9月 合併号第6版発行
平成24年9月 合併号第7版発行
平成25年10月 合併号第8版発行
平成26年6月 合併号第9版発行
平成27年3月 合併号第10版発行
平成28年3月 合併号第11版発行
平成29年3月 合併号第12版発行
平成30年4月 合併号第13版発行
令和元年7月 合併号第14版発行
令和2年4月 合併号第15版発行

編集・発行 しずおか焼津信用金庫 お客様サポート部

TEL 054-247-1160

FAX 054-247-1178

第20回信用金庫PRコンクール「最優秀賞」受賞

第10回信用金庫社会貢献賞「地域活性化しんきん運動・優秀賞」受賞

第3回ものづくり日本大賞「優秀賞」受賞（青少年支援部門）

メセナアワード2015「優秀賞」（夢ものづくり賞）受賞